

# 広域連携火葬場建設研究会報告書を公表します

現在、本市には、小野田斎場と山陽斎場の2か所の火葬場がありますが、いずれの施設も老朽化が進んでおり、施設の整備、新火葬場の建設が求められています。そこで、地理的にも近く、本市と同じように老朽化した火葬場を抱える宇部市と広域連携による火葬場建設の研究会を両市職員で立ち上げ、9回の協議を重ねてきました。この研究会で、共同で建設した場合のメリット・デメリット等を検討し、内容を取りまとめましたので、その概要をお知らせします。

なお、広域連携による建設は、あくまでも今後、新火葬場を建設する際の選択肢の一つであり、この報告書はその参考資料として活用するものです。

※ホームページには報告書全文を掲載しています。

図 環境課 (☎ 82-1143)

## 建設費の試算

### ◇施設規模 ※( )内は本市単独で建設する場合

計画火葬炉基数	12基	(5基)
予備炉	1基	(1基)
胞衣炉	1基	(1基)
延床面積	4,300㎡	(1,985㎡)
敷地面積	12,000㎡	(5,538㎡)

※将来人口と死亡者数を推計し、1日当たりの火葬件数等をもとに算定しています。

### ◇建設費 ※( )内は本市単独で建設する場合

約30～37億円(約14～16億円)

※施設規模をもとに算出しています。ただし、施設の仕様等で、相当の変動が考えられます。なお、金額は造成費を含み、用地費は含まれていません。

建設費を両市の人口で案分すると本市の負担分は約8～10億円となり、単独で建設する場合と比較して数億円程度、財政的な負担が軽減される試算となりました。

比較対象とした両市それぞれの単独での建設費は、試算の手法上、計画火葬炉基数がやや過大に算定されており、あくまでも机上の試算である。今後、広域連携による建設を推進する場合は、より詳細な諸元に基づき建設費および財政的メリットを試算することが必要である。

《報告書から抜粋》

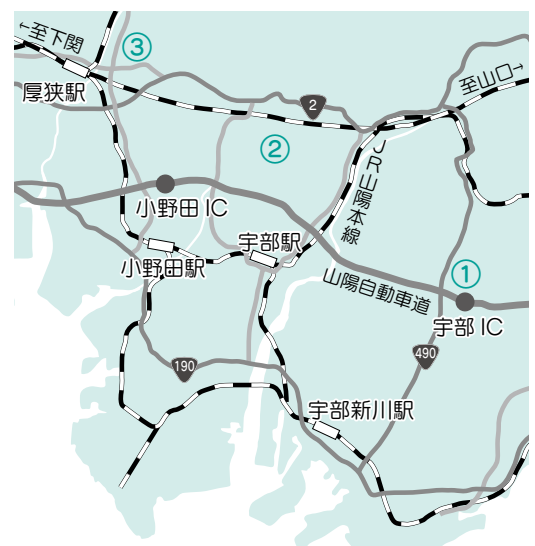
## 候補地の選定

交通アクセス、用地確保など5項目20点満点で評価を行いました。候補地と総合評価点は次のとおりです。

① 白石斎場(宇部市)	16点
② 楠清掃センター(宇部市)	13点
③ 山陽斎場(山陽小野田市)	14点

候補地のうち、白石斎場が高い評価となりましたが、いずれの候補地も大規模な造成工事が必要です。

最も理想とする候補地の条件は、用地確保が容易で造成工事が軽微な場所で、なおかつ隣接220m以内に住宅等がないことが求められるが、現状の候補地では困難な結果となった。《報告書から抜粋》



[候補地位置図]

### ◆◆新火葬場建設に関するご意見をお聞かせください◆◆

いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。なお、内容や氏名等は公表しません。

【提出先】環境課 (☎ 82-1143 FAX 83-2604) kankyo@city.sanyo-onoda.lg.jp